

Making Ideas Count

Corporate Profile

183
0200
47,647

リコーウェイは、リコーグループの日々の判断や活動の基礎となる普遍的な理念（創業の精神、私たちの使命・私たちの目指す姿・私たちの価値観）です。

創業の精神

三愛精神 創業者 市村 清

「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」

私たちの使命
世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、
生活の質の向上と持続可能な社会づくりに責任を果たす

私たちの目指す姿
信頼と魅力のグローバルカンパニー

私たちの価値観
CUSTOMER-CENTRIC
お客様の立場で考え、行動する
PASSION
何事も前向きに、情熱を持って取り組む
GEMBA
現場・現物・現実から学び改善する
INNOVATION
制約を設けず、柔軟に発想し、価値を生み出す
TEAMWORK
お互いを認め合い、すべての人と共創する
WINNING SPIRIT
失敗をおそれず、まずチャレンジし、成功を勝ち取る
ETHICS AND INTEGRITY
誠実に、正直に、責任を持って行動する



「三愛精神」は、1946年にリコーの創業者、市村清が提唱したもので、リコーでは創業の精神と位置づけています。これは、事業・仕事を通じて、自分、家族、顧客、関係者、社会のすべてを豊かにすることを目指した考えで、リコーグループの全社員が、経営や仕事を行ううえで原点となるものです。

Contents

社長メッセージ	1
ビジネスの力で持続可能な社会を実現	2
人々の“はたらく”をよりスマートに。	3
事業 オフィスプリンティング／オフィスサービス	4
商用印刷	6
産業印刷	7
サーマル／産業プロダクツ	8
スマートビジョン	9
新規育成	10
技術力	12
環境経営	14
社会貢献	16
文化体育活動／スポンサーシップ	17
リコーグループの概要	18
リコーグループの歩み	19

表紙について

Making Ideas Countとは、リコーのアイデアがイノベーションとなり、様々な数値として現れているという意味です。

表紙の数字は、本文の中でも記載のとおり、リコーが企業活動を通じて獲得したデータがモチーフになっています。

- 世界シェア1位 (A3レーザー MFP：単機能コピーを含む)* 2018年出荷台数
- 世界約200カ国・地域で事業を展開 (2019年3月31日現在)
- 国内外特許保有権利数年間47,647件 (2019年3月31日現在)
- バリューチェーン全体のGHG排出ゼロを目指す (2050年目標)

2019年リコーは創業83周年を迎えました。これからもリコーグループは、お客様に新たな価値をご提供してまいります。

*出典：IDC's Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker, 2019 Q1, A3 Laser, MFP/SFDC, Speed Range A4 less than 91ppm, by Company

Creating Value Beyond Customer Expectations

社長メッセージ

お客様の期待を超えた価値創造を目指して

リコーグループは1936年の創業以来、革新的なテクノロジーに基づいた光学機器や画像機器などを通して、世の中に新しいイノベーションをもたらし、お客様とともに成長してきました。

その一方で、当社のビジネスを取り巻く環境は常に変わりつづけています。気候変動に端を発する環境問題、グローバル化の進展や新興国の経済成長、貧困や人権問題など、さまざまな課題が顕在化しています。

そのような状況の中で、私たちは改めて、創業の精神である「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という「三愛精神」を基盤に事業を見つめ直し、「世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、生活の質の向上と持続可能な社会づくりに責任を果たす」という使命を実現しなければならないと考えています。

私たちリコーグループは、全従業員が一丸となってむかうべき方向性として、お客様への提供価値メッセージを「EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES」と定めています。

「人々の“はたらく”をよりスマートに。」という想いを軸に、人のもつ個性をスマートに伸ばすとともに、オフィスから現場、社会へと価値提供の領域を広げ、事業活動を通じて、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献していきます。

これからも、「人々の想像力の結集で生み出された力が未来を変えていく」という想いを、タグライン「*imagine. change.*」に込め、お客様のご要望にお応えするとともに、それを超えたりコーグループならではの価値創造で、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。



代表取締役
社長執行役員・CEO

山下 良則

Materializing Social Sustainability through Business

ビジネスの力で持続可能な社会を実現

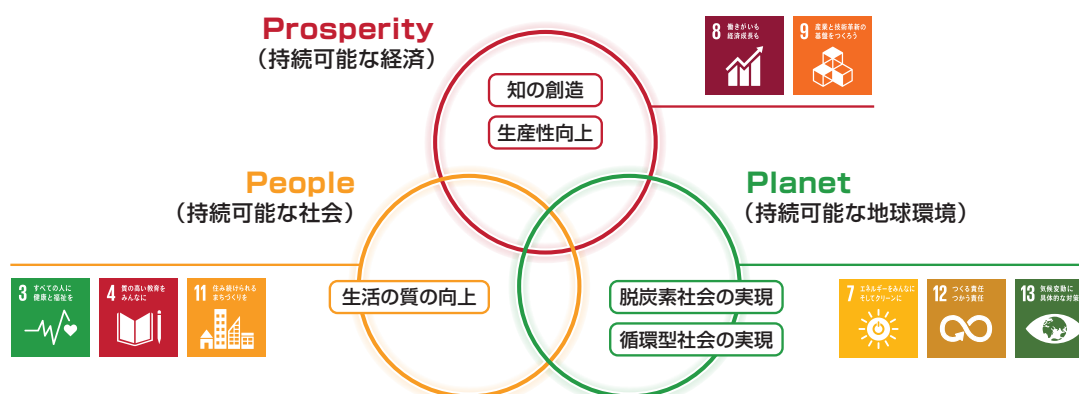
リコーグループは、経済 (Prosperity)、社会 (People)、地球環境 (Planet) の3つのPのバランスが保たれた「Three Ps Balance」を目指すべき持続可能な社会の姿として掲げています。この実現に向け、「事業を通じた社会課題解決」「経営基盤の強化」「社会貢献」の3つに取り組み、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献していきます。

サステナビリティの取り組み

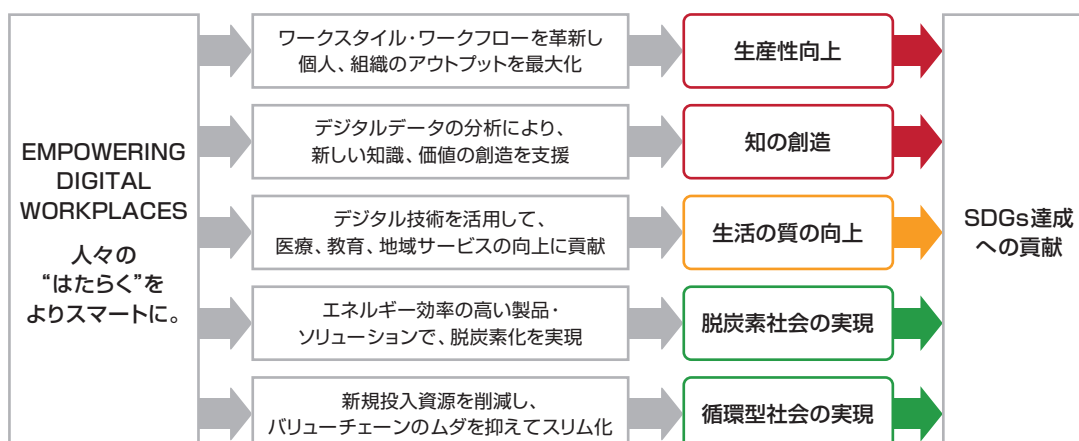


リコーグループは、自社の強みを活かして課題解決に貢献できるSDGsの項目を8つに絞り込みました。さらに事業を通じて取り組む5つの重要社会課題 (マテリアリティ) を設定しました。オフィスから、現場 (ワークプレイス)、そして社会へと価値提供の領域を拡大し、社会課題の解決と企業の成長の同時実現を目指します。

リコーグループのマテリアリティ



リコーの提供価値とSDGs達成への貢献



EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES

人々の“はたらく”をよりスマートに。

— 人と情報をつなぎ、人の伝える力、人の生み出す力を支える。

リコーグループは2017年、お客様へご提供する価値を“EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES”として決めました。人と情報をつなぎ、人の伝える力や生み出す力を支えること。それは、1936年の創業以来、「三愛精神」のリコーが大切にしてきた使命です。

「人を想う」から考え、「はたらく」を変革する。それが、私たちの原点。

日本初の複写機は、膨大なビジネス文書の処理に追われていた人を、正しくすばやく伝える人に。世界初の大陸間通信に成功したファクシミリは、働く人を狭いオフィスから解放し、世界とつながる人に。それらは、「オフィスオートメーション」という新たな価値を生み、さらに、ドキュメントの発生から、伝達、活用、保管、廃棄というライフサイクルをたどるワークフローの構築へと進化し、働く場にさまざまな変革を提供してきました。

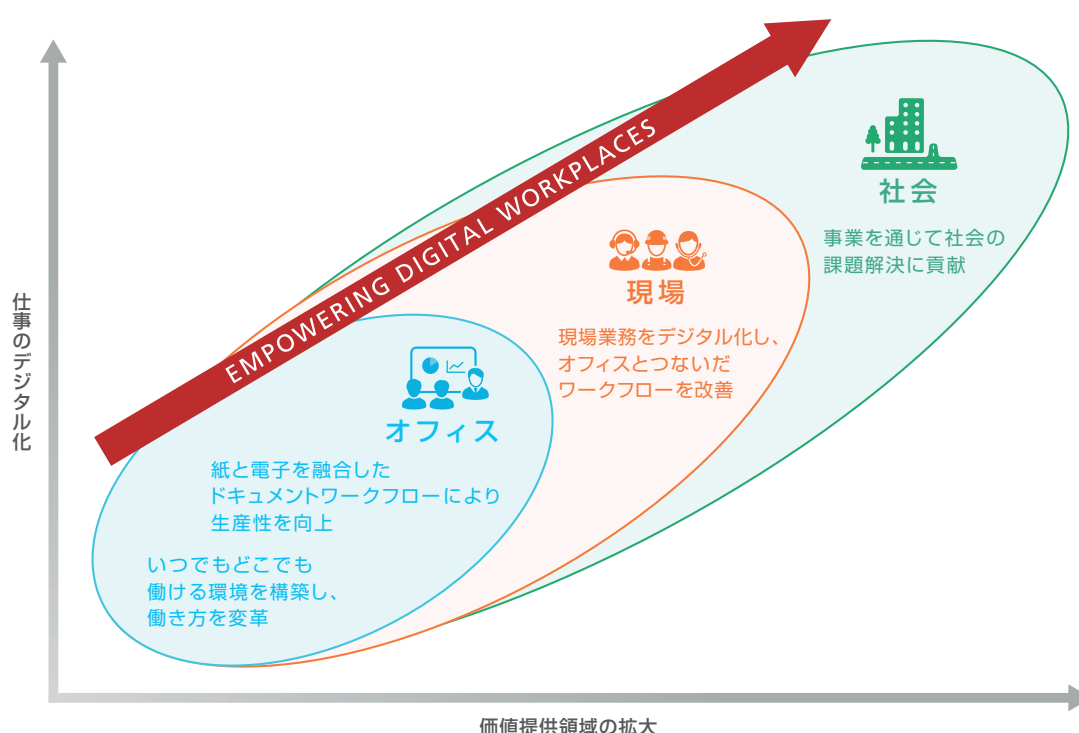
しかし、時代が変わり、技術が進歩した世の中になっても、働く人のまわりには解決すべきさまざまなビジネスの課題、その先に数多くの社会課題が残されています。私たちリコーはEMPOWERING DIGITAL WORKPLACESから、さらなるソリューションをお届けしていきます。

「人を想う」、その想いは人と人の間でアイデアになり、社会とつながって新しい価値になる。

私たちリコーは、そんなしあわせの連鎖をデジタルで支え、持続可能な社会に貢献していきます。

リコーが目指す姿

ワークプレイスの拡がりとしりコーの価値提供領域



Office Printing/Office Services

オフィスプリンティング／オフィスサービス

“はたらく”を進化させる多様な価値を提供

より効率的・生産的な働き方を実現し、業務プロセス変革や働き方改革を支援します。



MFPs

RICOH IM C6000

「RICOH IM C6000」をはじめとする新世代複合機と、クラウドプラットフォーム「RICOH Smart Integration」を介して提供する各種クラウドサービスを組み合わせ、「RICOH Intelligent WorkCore」として提供します。複合機本体の導入後も基本性能を最新の状態にアップデートできる「RICOH Always Current Technology」を実装しており、さまざまな業種業務に対応した最新のクラウドサービスとの連携によるワークフロー改善や最先端のセキュリティ機能への対応を実現しました。AIを活用したOCR機能により、複合機が紙ドキュメントの情報をデジタルデータ化するためのゲートウェイとなることで、お客様が取り組む業務プロセス変革や働き方改革を支援します。



直感的に操作できる10.1インチ大型フルカラータッチパネル「MultiLink-Panel」

Unified Communication Services

RICOH Unified Communication System P3500

専用回線不要で、必要なときにいつでもどこでも複数拠点を簡単につないで、遠隔地の相手と顔をあわせてコミュニケーションできる持ち運び可能なシステム。



Projectors

RICOH PJ WX4152N

超短焦点からハンディ、ハイエンドまで、設置場所や機能、投写距離など目的にあわせた多彩なラインアップ。



Small Printers

RICOH Handy Printer

315gの持ち運びできるサイズながら、印刷物の上にプリンターをスライドさせるという逆転の発想で、段ボール、ラベル、封筒、ハガキ、木材、布等、今まで印刷するのが難しかったものや場所にも印刷が可能です。



Interactive Whiteboards

RICOH Interactive Whiteboard D8600

パソコンやタブレットなどの情報をディスプレイに表示し、画面に直接手書きで書き込めるほかデジタル情報として保存することが可能。複数台の使用で遠隔地同士の共有も可能。4K対応で、大規模会議室やオフィス受付、公共施設のインフォメーションボードにも最適。

オフィスと現場をつなぎ、業務プロセスを変革

「RICOH UCS 360 VR Live」は、新世代MFP「RICOH IM Cシリーズ」や「RICOH Interactive Whiteboard」、「RICOH UCS」、「RICOH THETA」などのさまざまなエッジデバイスやアプリケーションをクラウドプラットフォームでつなぎ、お客様のワークフロー変革をサポートします。



「RICOH Unified Communication System 360 VR Live」の構成イメージ

Commercial Printing

商用印刷

印刷のトータルソリューションを実現

オンデマンド対応に強みを発揮するデジタル印刷機に、高いソリューション力を組み合わせ、「Offset to Digital」（オフセット印刷からデジタル印刷への転換）を推進し、印刷物制作における環境負荷削減にも貢献していきます。

Production Printers

RICOH Pro VC70000



にじみや裏抜けがしにくいリコー顔料インクを採用し、高解像度 1,200 dpi デュアルプリントヘッドを搭載。さまざまな分野で培われたリコーのプリントヘッドやインク技術と歴史を結集した高速インクジェット連帳機です。



RICOH Pro C9210/C9200



生産性を高める高速出力、滑らかな高画質、高精度なレジストレーション、幅広い用紙対応力に加え、新技術 IQCT for High-End による印刷品質の自動安定化と、印刷前の調整作業の省力化を実現。リコーのカラー POD（プリントオンデマンド）機のフラッグシップモデルとして、お客様のデジタル印刷ビジネスをサポートします。

Industrial Printing

産業印刷

長年培ったインクジェット技術でプリントの可能性を広げる

産業用インクジェットヘッドに加え、作像システムソリューションや産業プリンターを提供し、お客様のバリューチェーンの変革を支えます。また、オンデマンド印刷化を促進することで、環境負荷削減にも貢献していきます。

Garment Printers

RICOH Ri 100

従来のスクリーン印刷に比べて、テキスタイル用途へのインクジェット技術の応用は、工程の短縮によるエネルギー消費や化学薬品の削減をもたらし、環境負荷を低減させます。また、精細な絵柄の表現を可能にします。



Inkjet Heads

RICOH MH5421 シリーズ

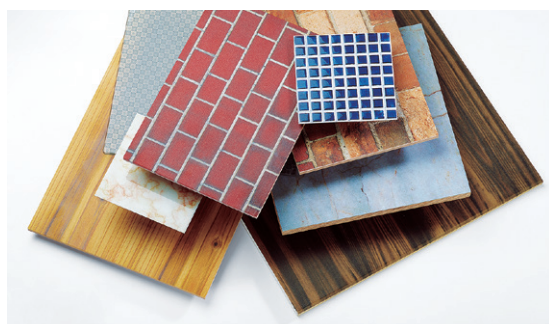
ステンレスハウジングによる高耐久性に加え、長尺・ノズル多列化による高精細印刷を実現する、水性専用多色インク対応インクジェットヘッド。新たな接合技術を採用し、水性インク対応力を強化しました。



インクジェット技術の拡がり

テキスタイル

ガーメントプリンター「RICOH Ri 100」は、カセットにTシャツをセットしたら印刷実行可能です。印刷後の着心地と洗濯堅牢性も両立します。



パッケージ・可食プリント

食品パッケージのオンデマンド印刷などのほか、耐食性に優れ、ピエゾ素子とインクが触れない構造の液室を持つインクジェットヘッドで、食品への安全な可食プリントも実現します。



インテリア・装飾

トレンドサイクルが早く、多様なニーズのあるインテリア材・建材分野にインクジェット技術を活用しています。リコー独自のインクで、アクリルやガラス、木材、アルミ、鋼板など、さまざまな基材に高い密着性を実現しています。立体感や質感までも加えてデザイン性を向上します。









Thermal





サーマル

お客様のニーズに応える多様な製品・サービス

世界で圧倒的なシェアを占めるリコーの高付加価値サーマルペーパー（感熱紙）をはじめ、高い品質の製品・サービスを提供し、さらなるお客様の信頼獲得を目指します。

感熱紙の活用例

感熱紙				熱転写リボン			
軽量プリンターやバーコードプリンターで、可変情報を発色印字する感熱ラベル				バーコードプリンターで、紙やフィルムに可変情報を印字するインクリボン			
							
食品計量ラベル	物流配送ラベル	医療用リストバンド	チケット・宝くじ	工程管理ラベル	衣料用ケアラベル	商品管理ラベル	日付印字

レーザーソリューション			
リライタブルレーザーシステム 可変情報の印字と消去を繰り返し行うことができるシステム		高速レーザープリンティングシステム 高速（最大5m/秒）でのオンデマンド印刷が可能なシステム	
			
物流業の通い箱	工場間輸送トレイ	病院内患者別薬搬送トレイ	PETボトル飲料のカスタマイズラベル (ラベル搬送速度：3～5m/秒)

Industrial Products

産業プロダクツ

多様な領域で実現する価値創造

自動車業界を含む産業機器分野でこれまで培ってきた技術の強みを活かしながら事業を展開し、パートナー様と共に社会課題の解決に努めます。

Stereo Cameras

歩行者や車両などの障害物の検出に加え、路面の凹凸までを高速データ処理するリアルタイム認識を実現。



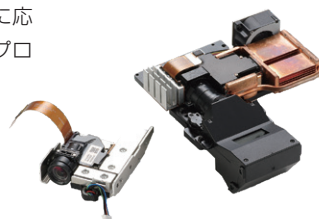
Laser-scanning Head-up Displays

独自のレーザー技術を活用し、高い色再現性と視認性を実現する世界発のレーザースキャン方式HUD。



Projection Modules

産業組み込み用途の需要拡大に応え小型の短焦点・超短焦点プロジェクターモジュールを提供。



Precision Equipment Parts

エンジンの環境性能向上を求めるニーズを先取りしたものづくりを実現。



Smart Vision

スマートビジョン

新たな画像・映像表現を創造

ユニークで魅力的なハードウェアとそのデータ活用により、新たな画像・映像表現を創造していきます。



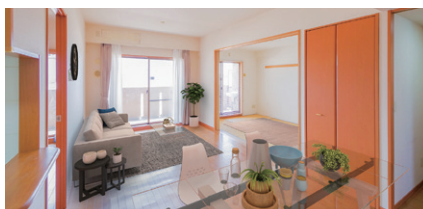
RICOH THETA Z1

ワンショットで全天球イメージを撮影できる360°カメラです。撮影した360°の静止画、動画は、スマートフォンやタブレットに転送して楽しめるほか、SNSで共有したり、VRコンテンツとして利用することも可能です。バーチャルなイメージ画像を表示可能にした「RICOH360 - VRステージング」(右)は撮影された360°画像にCG技術を活用し、家具や小物など装飾した空間を魅力的に演出することができます。

CG作成前



CG作成後



Digital Cameras

PENTAX K-1 Mark II

写真愛好家の作品づくりやプロフェッショナル用途にも対応するKシリーズ最高級機となる35ミリフルサイズデジタル一眼レフカメラです。35ミリ判フィルムと同等サイズの大型CMOSイメージセンサーを搭載し、有効画素数約3,640万画素の超高精細や、階調再現性や高感度性能にも優れた極めて高画質な画像を実現しています。



GR III

「GR」の後継機として、基本コンセプトである高画質や速写性、携帯性といったカメラの本質的な価値をさらに強化するため、レンズ、イメージセンサー、画像処理エンジン等の主要デバイス全てを一新した最新モデルです。

RICOH WG-60

水深14mでの水中撮影が可能な防水性能をはじめ、高さ1.6mからの耐落下衝撃性能やマイナス10℃までの耐寒構造を備えた防水コンパクトデジタルカメラです。水中から雪山登山まで、これ1台でアウトドアのさまざまな撮影シーンに対応することができ、有効約1,600万画素の高精細な静止画や、フルHDサイズの動画撮影が可能です。



New Business Development

新規育成

リコーの強みを活かし、将来の社会価値を創造

社会に革新的な商品・サービスを提供し、持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。



RICOH Rapid Fab

3Dプリンターの活用方法や実機を紹介する場として「RICOH Rapid Fab」を新横浜、名古屋、大阪、厚木に加え、海外1カ所（英国・テルフォード）に展開しました。製造業のお客様を対象に「3Dプリンター出力サービス」といった3Dプリンターを活用してきたリコーならではのサービスも提供しています。今後は、医療、建築、教育といった製造業以外の分野も含めて、「RICOH Rapid Fab」を軸に21世紀のものづくり革命に貢献してまいります。

Additive Manufacturing

3D 造形作例

以前はおもに試作品に使われていた3Dプリンターですが、性能が飛躍的に向上し、今では治具や小ロット生産の型、最終的な部品の製造にも使われています。3Dプリンターの普及が「第三次産業革命」を後押ししています。



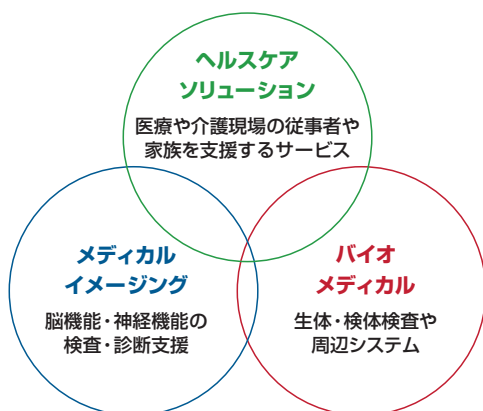
太陽光発電 O&M サービス

お客様とともに脱炭素社会、循環型社会の実現をめざすため、さまざまなソリューションの提供を開始しています。電力販売サービスでは、電力単価のコストダウン提案だけでなく、リコーの省エネノウハウの提供により、お客様の電力総量削減のお手伝いもしています。また、再生可能エネルギーの利活用を推進するため、全国に広がるOA機器の販売・サービス網を活用して太陽光発電システムの稼働状況のモニタリングやメンテナンスを行う「太陽光発電O&Mサービス」により、再生可能エネルギーの安定供給を支援しています。

Eco Solutions



Healthcare

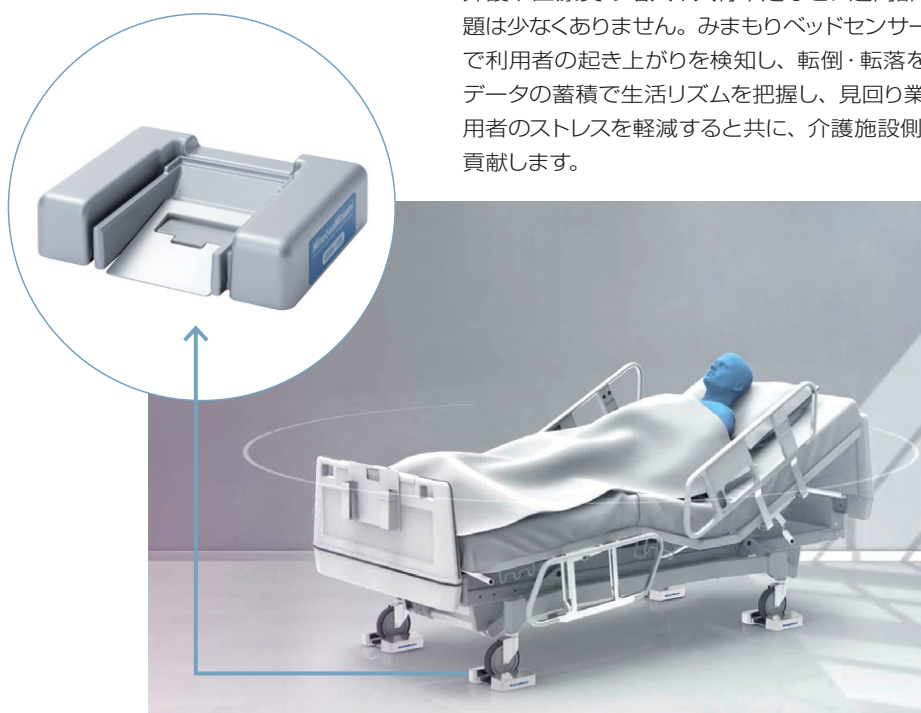


3つの重点領域

リコーグループは2016年から、医療や介護の従事者とともに、医療や介護サービスの質の向上に貢献し、世界の人々の健康寿命の延伸を実現することをミッションとして、ヘルスケア分野に本格的に事業参入し、「ヘルスケアソリューション」「メディカルイメージング」「バイオメディカル」の3つを重点領域と定めて事業拡大を目指しています。

リコー みまもりベッドセンサーシステム

介護や医療費の増大や人材不足など、超高齢化社会が抱える課題は少なくありません。みまもりベッドセンサーシステムは、遠隔で利用者の起き上がりを検知し、転倒・転落を予防します。体動データの蓄積で生活リズムを把握し、見回り業務を効率化し、利用者のストレスを軽減すると共に、介護施設側の業務負荷軽減に貢献します。



脳磁計測システム

臨床分野はもちろん、脳機能の解明、応用研究分野など多くの領域で「脳機能の解析・イメージング」が求められています。こうした要求に応える先端の医療機器として、脳磁計測システム「RICOH MEG」を提供しています。医学の進歩を支えるパートナーとして、リコーは、医療の質の向上と効率化に取り組んでいます。



Technological Clout

技術力

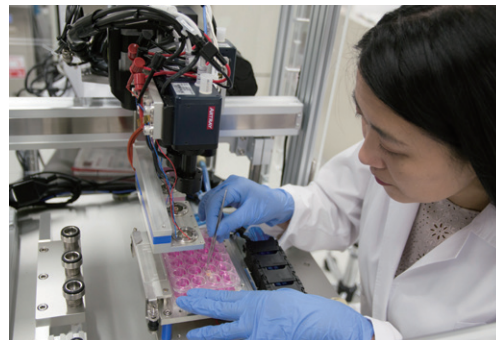
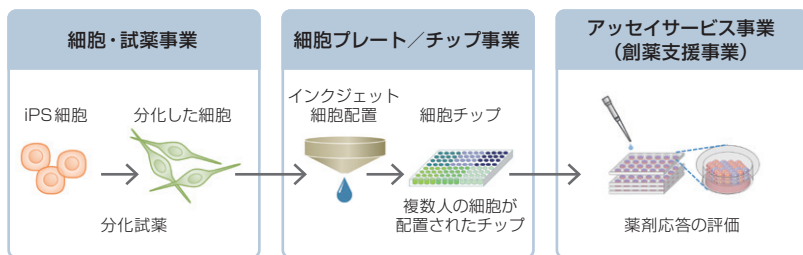
コア技術と独自のアイデアで新しい価値を社会に提供しつづける

お客様の働く場の変革や社会課題の解決に貢献する製品や技術を生み出していきます。

バイオプリンティング技術の開発と応用

リコーは、細胞を生きたまま精密に吐出する独自のインクジェット技術を活用したバイオプリンティング技術の開発を行っています。この技術を活用したバイオ3Dプリンターによって、生体組織構造を再現し、より生体に近いヒト組織モデル作製が期待できます。

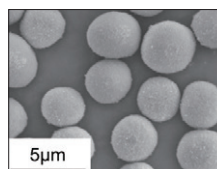
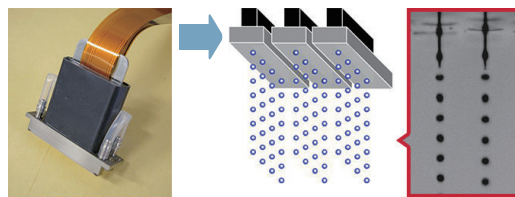
創薬事業のステップ



Quality of Life

微細均一造粒

リコーでは、インクジェット技術により、微細かつ均一な粒子の生成を実現する技術の開発を行っています。この技術を医薬品(吸入薬等)に応用することで、狙った部位に薬剤を効率的に届けて作用させる、副作用を抑制するなどの効果が期待できます。



Manufacturing Innovations

二次電池のデジタル印刷製造

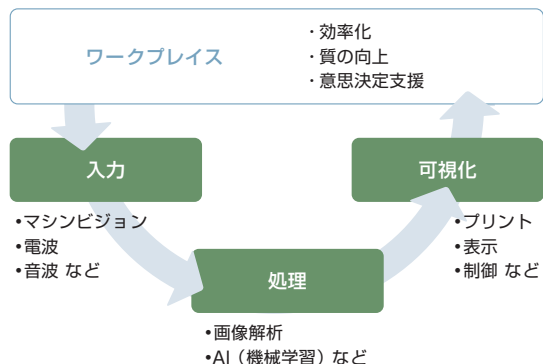
2019年1月、インクジェット技術を用いてリチウムイオン二次電池を自由な形状で製造する世界初の技術を発表しました。インクジェットヘッドから吐出できる低粘度かつ高濃度な電極材料インクの製造を実現。リチウムイオン二次電池に用いられているほとんどの種類の電極材料やセパレーターの材料のインク化に成功しました。これらの電池部材をインクジェット技術を用いて狙った場所に重ねてデジタル印刷することで、プロセスを簡易化し、多品種生産を容易にします。また、必要な部分だけに電極材料を印刷するために、電極材料の無駄もなくなります。



Knowledge Creation Support

「知の創造」サポート

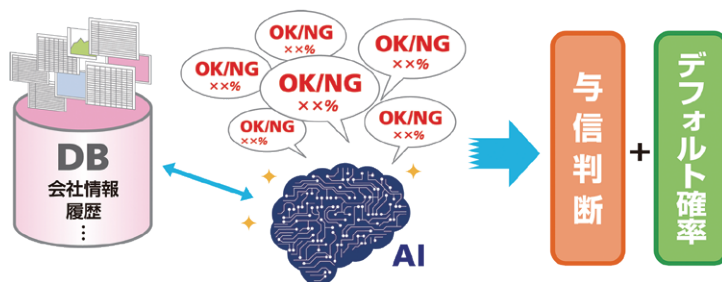
人の働く場は業種や業務によって異なり、ありとあらゆる場所に広がっています。グローバル化により、異なるタイムゾーンや環境の人がデジタルでつながり、絶え間ないやりとりをしています。リコーはこれらのやりとりこそ、「知の創造」の源泉と捉えています。エッジデバイスによる「入力」、AIなどによる「処理」、最適な方法での「可視化」の3つのステップを有機的に連携するIoTなどのテクノロジーとサービスの提供で、イノベーションを生み、社会に活力をもたらすことを目指します。



AI-Based Credit Approval

AIによる自動与信

金融の分野にむけ、従来、人が行っていた与信判断をAIが行う「与信モデル」を開発し、リコーリース株式会社の業務で実際に活用しています。与信業務を省力化するだけでなく、デフォルト（貸倒れ）を高精度に予測することで損失低減も可能になります。

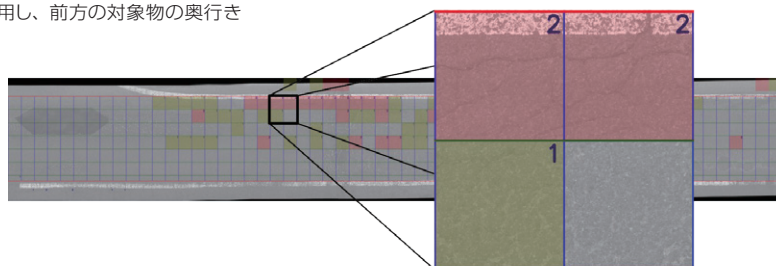


Road Surface Inspection System

路面性状モニタリングシステム

道路や橋などのインフラや構造物の老朽化が社会課題となっています。それらを計画的に維持管理することで、社会の「安心・安全」が増大します。リコーは、車両を走らせて路面を撮影し、劣化を計測する「路面性状モニタリングシステム」を開発。一般車両に搭載できるため、大型の専用車両では計測が困難だった生活道路にも活用できます。ステレオカメラ*を複数台用いて、一度の走行・撮影で「ひび割れ率」「わだち掘れ量」「平坦性」の計測を実現します。

*ステレオカメラ：2台のカメラの視差情報を利用し、前方の対象物の奥行き情報（3次元情報）が得られるカメラ。



ステレオカメラで路面を撮影し、AIにより、ひびのレベルを自動判定

Sustainable Environmental Management

環境経営

環境保全と事業成長を同時実現する「環境経営」

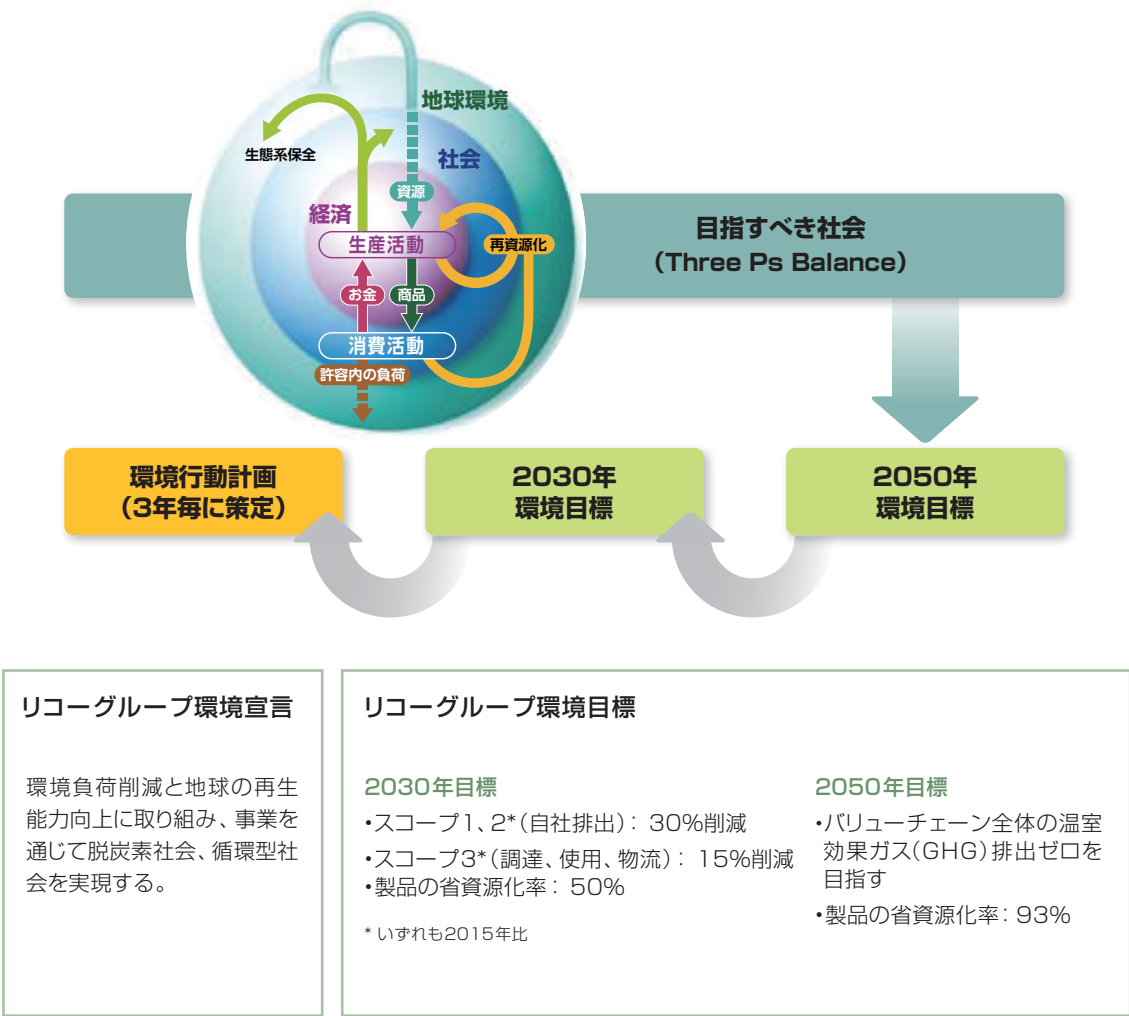
長期的な視点でビジネスモデルの変革を進め、社会のサステナビリティ向上にも貢献します。

リコーグループが2017年4月に設定した5つの重要社会課題（マテリアリティ）には、持続可能な地球環境に関連する「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」の項目があります。

これらの達成にむけて、「リコーグループ環境宣言」を掲げ、「リコーグループ環境目標」を設定し、取り組みを強化しています。特に「脱炭素社会の実現」にむけて、温暖化防止分野では、2050年までにバリューチェーン全体の温室効果ガス（GHG）排出ゼロを目指します。目標達成にむけては、徹底的な省エネ活動を進めるとともに、再生可能エネルギーを積極的に活用していきます。また、国際的なイニシアチブであるRE100には日本企業として初めて参加しました。さらに、製品のエネルギー効率向上などに取り組むとともに、ビジネスパートナーや顧客にも協力を働きかけることで、バリューチェーン全体での脱炭素社会づくりに貢献していきます。



バックカスティングによる目標設定

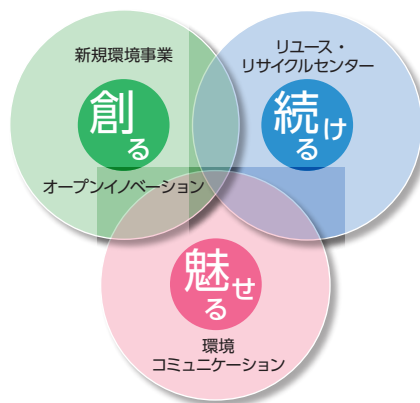


リコー環境事業開発センター

お客様やパートナー様と共に進化する環境経営』を実現する拠点として以下3機能を有し、2016年4月に旧御殿場工場をリニューアルして開所。



リコー環境事業開発センターの3機能



産官学連携のオープンイノベーションにより、『従来の事業領域にとらわれない、より広い分野』での環境事業創出を行い、持続可能な社会の実現に貢献。



新規環境事業の
実証・創出



リユース・リサイクル技術の
開発と実践



環境活動の
情報発信基地



木質バイオマス熱利用モデル



木質バイオマスボイラー

未利用間伐材をチップ化し、木質バイオマスボイラーの燃料として熱利用するエネルギーの地産地消モデルを、温浴施設等に展開しています。

回収機保管管理システム



回収機

リコー環境事業開発センターの倉庫では自社開発のカラーコードを利用した回収機保管管理システムを導入しています。天井カメラから、回収機のカラーコードをスキャンすることで、在庫状況、位置情報を管理しています。また再生機に適した回収機を選択し、リコー独自のAGV(無人搬送車)を活用して生産ラインへの自動搬送も実現しています。

Contributing to Society

社会貢献

リコーグループは、「良き企業市民」として社会課題の解決に貢献するために、グローバルで共通の基本方針を掲げ、重点分野を定めて社会貢献活動を行っています。各グループ会社の強みや人材・リソースを生かし、ステークホルダーとのパートナーシップを築きながら、地域・社会の持続的な発展を目指して活動を推進します。

プリントッド・メモリーズ プログラム(欧州)

2017年9月、リコーヨーロッパは、アルツハイマー病や認知症患者を支援するプリントッド・メモリーズプログラムを開始しました。デジタル写真をアップロードして患者宛ての絵葉書を作成できるこのプログラムを通じて、患者は親しい人々とのつながりを思い出すことができ、集まった費用はアルツハイマー病研究の資金として役立てられます。提供するツールの利用やイベントから、2018年は約10万ポンド(約1,330万円)の資金調達を実現しました。また、病気への理解を深めるために、短編映画「Dementia Uncovered」を共同制作しています。



リコー・サイエンスキャラバン(日本)

科学の楽しさを知る機会を子どもたちに提供することを目的に、リコーの人材と技術を活用した実験教室を、全国の科学館などで開催しています。



森林保全活動

リコーグループは、生物多様性の保全のみならず地球温暖化防止、および持続可能なコミュニティ発展の観点からも森林保全が重要と考えており積極的な取り組みを行っています。

1999年度から、グローバルな視点で環境NGOなどの専門家とのパートナーシップのもとに「森林保全プロジェクト」を展開しています。

また2017年からは、自治体・地域住民といった地域を主体とした様々なステークホルダーの皆さまと一緒に、地域コミュニティの発展に貢献することを目的として、「ステークホルダー協働による森づくり」を拡げています。



メキシコ オアハカマングローブの保全



リコーえなの森 パートナー: 恵那市、地元自治会、地域企業

Engaging in and Sponsoring Cultural and Sports Activities

文化体育活動／スポンサーシップ

文化体育活動

リコーグループは、「元気のいい会社」の実現、地域社会へのお役立ち、社内で働く全ての人の「円滑なコミュニケーション」に寄与するために、文化体育クラブ活動をおこなっています。



▲Ricoh Black Rams (ラグビー部)



▲卓球部

(写真提供 卓球王国)



▲テニス部



▲将棋部



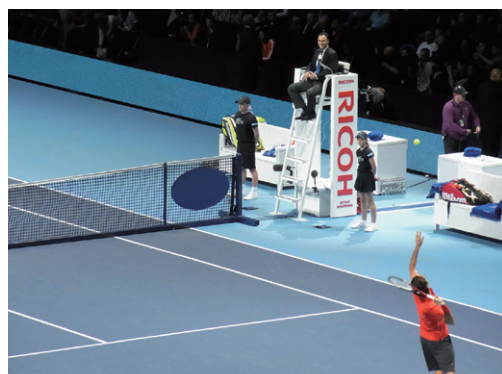
▲リコーフィルハーモニーオーケストラ

スポンサーシップ

リコーグループはスポーツや文化活動を積極的に支援しています。



▲LPGA ツアーチャンピオンシップ
リコーカップ (日本) ©Getty Images



▲ATP (プロテニス選手協会) ツアー (欧州)



▲日本科学未来館オフィシャルパートナー (日本)



▲リコー杯女流王座戦 (日本)



▲Toronto Maple Leafs (カナダ)



▲ACミランサッカークラブ (イタリア)

About the Ricoh Group

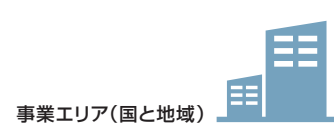
リコーグループの概要



2兆132億円
(2019年3月期)



92,663人
(2019年3月31日現在)



約200カ所
(2019年3月31日現在)



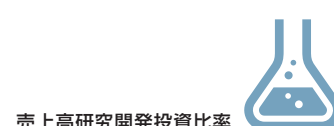
世界第1位*

2018年出荷台数(単機能コピー機を含む)

*出典: IDC's Worldwide Quarterly
Hardcopy Peripherals Tracker,
2019 Q1, A3 Laser, MFP/SFDC,
Speed Range A4 less than
91ppm, by Company



47,647件
(2019年3月31日現在)



5.5%
(2019年3月期)



5.4%
(2019年3月期)



8,618億円
(2019年3月31日現在)

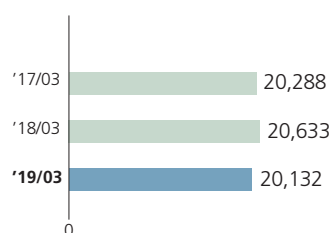


60.0%
(2019年3月期)

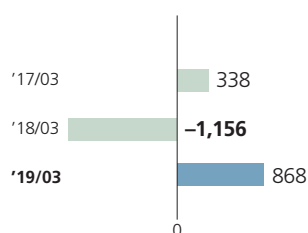
2019年3月期業績ハイライト

IFRS(国際会計基準)に準拠しております。

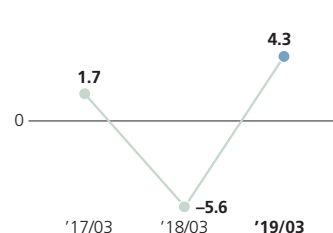
売上高
(億円)



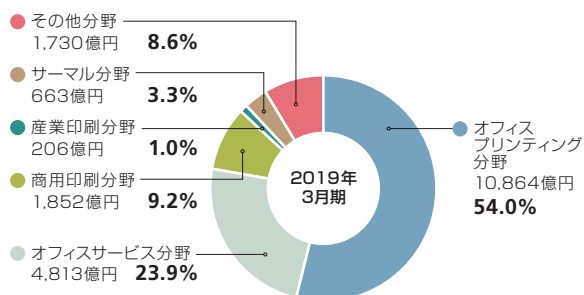
営業利益
(億円)



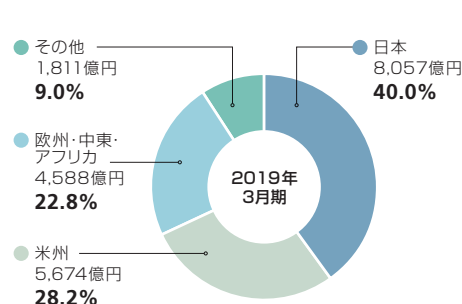
営業利益率
(%)



製品分野別売上高



地域別売上高



2017年4月1日より事業領域の再定義を行い、事業の種類別セグメントを変更しております。

A Solid Record of Innovating Value

リコーグループの歩み

変革と挑戦の 83 年。リコーの歩みはイノベーションの歴史でした

リコーの歴史は、感光紙とカメラという2つの“伝える”技術から始まりました。その後、複写機やファクシミリの開発で培った画像処理技術を生かして、お客様の生産性向上と知識創造に貢献するイノベーションを次々と起こしてきました。

創業～事務機分野進出

リコーは、理化学研究所の研究開発を工業化するために設立された「理化学興業株式会社」から感光紙事業を継承し、1936年に「理研感光紙株式会社」として創業しました。翌年にはカメラ事業にも進出。1950年代初頭にカメラの大量生産体制をわが国で初めて確立し、一般大衆へのカメラの普及を促進しました。1955年にはリコピー 101 を発売し、事務機分野にも進出しました。

1936年 財団法人理化学研究所における発明の工業化を目的とする理化学興業株式会社から独立し、理研感光紙株式会社として設立。市村清事務取締役就任。



1938年 商号を理研光学工業株式会社に変更（～1963年）。

1946年 市村清社長就任。

1950年 カメラの大衆化の先駆け「リコーフレックスⅢ」を発売。



リコーフレックスⅢ

1955年 ジアゾ複写機の1号機「リコピー 101」を発売。事務機分野へ進出。



リコピー101

1957年 カメラの大量生産方式の確立に対し、「大河内記念生産賞」を受賞。

1960年 事務機用オフセット印刷機の1号機「リコーオフセットB4」を発売。

1962年 ハーフサイズカメラの大ヒット作となった「リコーオートハーフ」を発売。

1963年 社名を株式会社リコーに変更。

1965年 静電複写機「電子リコピー BS-1」を発売。

1968年 創業者市村清社長逝去。

OA を提唱

1974年に世界で初めて事務用高速ファクシミリ「リファクス 600S」を発売。1977年には業界で初めて「OA（オフィス・オートメーション）」を提唱しました。1980年代には、オフィスコンピューターやワードプロセッサー、光ファイリングシステム、レーザープリンターなどを順次提供し、オフィスの生産性向上を支援しました。

1970年 日本万国博に「よりよき人類の眼」をテーマにリコー館を出展。



1971年 オフィスコンピューターの1号機「リコム8」を発売。

1972年 乾式PPC*「リコー PPC 900」を発売。

1973年 事務用高速ファクシミリの1号機「リファクス 600S」が人工衛星を使用して、米国との国際間電送に成功。



リファクス 600S

1975年 湿式PPC「ニューリコピー DT1200」を発売。事務機業界初の「デミング賞実施賞」を受賞。

1976年 地球環境保全のために環境推進室を設立。モントリオールオリンピックで「リファクス600S」が活躍。



ニューリコピーDT1200

1977年 業界で初めてOA（オフィス・オートメーション）を提唱。

1981年 欧州と北米で乾式PPCの自社ブランド販売を開始。

1982年 拡大・縮小機能つきA3判PPC「リコピー FT4060」を発売。

1984年 「リファクス 1300HS」が日経年間優秀製品賞を受賞。

* PPC : Plain Paper Copier (普通紙複写機)

デジタル化を推進

1987年に業界に先駆けて一般オフィス向けMFP「IMAGIO 320」を発売しました。1996年には省スペース・低価格を実現した「imagic MF200」を発売し、MFPの普及にも貢献。その後も複写機のネットワーク化・カラー化を推進しました。

1985年 「普通紙複写機の多品種生産システムの開発」で「大河内記念生産賞」を受賞。

不特定話者音声認識装置 / 光学的手書き文字認識装置を開発。

1987年 デジタル複写機「IMAGIO 320」を発売。

1989年 1992年バルセロナオリンピックにてファクシミリ分野でワールドワイド・スポンサー契約を結ぶ。

1991年 Ricoh California Research Centerが世界最高速のカラー画像圧縮アルゴリズムを開発。

中国に生産関連会社 Ricoh Asia Industry (Shenzhen) Ltd. を設立。

1992年 リコーグループの環境保全に取り組む姿勢を明確にした「リコー環境綱領」を制定。

1993年 Ricoh UK Products Ltd. が1993年「Queen's Award」環境貢献部門賞を受賞。

1994年 Ricoh UK Products Ltd. が1994年「ヨーロッパ産業環境賞」に入賞。日本国内において、MFPの遠隔診断サービスの全国展開をスタート。

1995年 リコー初のデジタルカメラ「DC-1」を発売。

Gestetner Holdings PLC (イギリス)、Savin Corporation (米国) を買収。

1998年 「RIFAX BL110 写太郎2」が「日本機械工業連合会会長賞」を受賞。

日本経済新聞社の「環境経営度調査」で第1位(2000年まで3年連続、および2004年)。

1999年 日本工業新聞社主催第8回地球環境大賞で「通産大臣賞」を受賞。

「日本経営品質賞(JQA)」を受賞。

2000年 複写機で業界初のエコマーク取得。



IMAGIO 320



DC-1

グローバルカンパニーへ

リコーの海外展開は、1970年代初頭にOEMブランドでの販売からスタートしました。1995年にはイギリスに本社を置くGestetnerをグループ化し、その後、積極的に海外展開を進め、グローバルな販売サポート体制を構築しました。また、プロダクションプリンティング市場への参入やソリューション事業の強化など事業領域の拡大にも着手しました。

2001年 MFP「imagic Neo 350シリーズ」が「省エネ大賞・経済産業大臣賞」を受賞。

Lanier Worldwide, Inc. (米国) を買収。

2002年 エコム社(ドイツ)「社会的責任格付」で世界第1位(2005年、2006年2年連続)。

「国連グローバル・コンパクト」に署名。

2003年 リコーグループがWEC (World Environment Center) ゴールドメダル受賞。

「第12回地球環境大賞・大賞」を受賞。

2004年 日立プリンティングソリューションズを買収、社名をリコープリンティングシステムズに変更。

2005年 トーマツ審査評価機構による「環境格付け」において最上位AAAの評価(2006年まで2年連続)。

コーポレートロゴを一新。

2006年 東京・銀座三愛ドリームセンターにリコーの広告塔が点灯。

2007年 リコーとIBMの共同出資会社 InfoPrint Solutions Companyが営業を開始。

2008年 カラープロダクションプリンター「RICOH Pro C900」を発売。

IKON Office Solutions, Inc. (米国) を買収。

2009年 リコー初、カラー MFP のリコンディショニング機「imagic MP C3500RC/C2500RCシリーズ」を発売。

世界初(メーカー純正として)の新開発バイオマストナーを採用したMFP「imagic MP 6001GP」を発売。

タイに生産関連会社 Ricoh Manufacturing (Thailand) Ltd. を設立。



三愛ドリームセンター



imagic MP 6001GP

新たなお客様価値の創造へ

お客様のワークスタイルの急速な変化に伴い、リコーの価値提供領域も大きく拡がりはじめました。

2010年 プロジェクションシステム事業に参入。

2011年 映像や音声などの多様な情報を統合して効率的なコミュニケーションが行えるユニファイド コミュニケーションシステム (UCS) 事業に参入。

ペンタックスリコーイメージング株式会社を発足 (2013年にリコーイメージング株式会社に社名変更)。

水も溶剤も使わないドライ洗浄技術が「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞。

2012年 エコム社 (ドイツ) の「持続可能性における世界で最も優れたIT企業」として認定。

事務機業界初、部品の一部に、100%鉄スクラップを原料とする電炉鋼板を採用したモノクロMFP「imaggio MP 9002/7502/6002/6002GPシリーズ」を発売。
1955年発売の「リコピー 101」が機械遺産に認定。

世界的なコンサルティング会社Deloitte社 (オランダ) により「『エコシステムレベル』に達している企業6社」に選定される。

2013年 ディスプレイの書き込みや遠隔地とのコミュニケーションも実現する「リコーインタラクティブホワイトボード D5500」発売。

「市村自然塾関東」が企業フィランソロピー大賞を受賞。

国内の設計・生産機能再編し、リコーテクノロジーズ株式会社、リコーインダストリー株式会社を設立。

全天球イメージを撮影可能な世界初*の画像インプットデバイス「RICOH THETA」発売。

2014年 コーポレートナイツ社 (カナダ) による「世界で最も持続可能な100社」に10年連続で選出される。

「市村自然塾 関東」が文部科学大臣賞を受賞。

世界的な社会的責任投資 (SRI) 指標「FTSE4 Good Index Series」に11年連続で採用される。

国内の販売会社を再編。リコーテクノシステムズ (株)、リコービジネスエキスパート (株)、リコーITソリューションズ (株) の一部をリコージャパン (株) に統合。



リコー インタラクティブ
ホワイトボード D5500



RICOH THETA

東京・銀座4丁目交差点に100%自然エネルギーで点灯する広告塔を設置。

アクティブ・マニュファクチャリング事業に参入。

「リファクス600S」が国立科学博物館の未来技術遺産に登録される。

2015年 中東地域における地域統括会社「Ricoh Middle East FTZ」をドバイ酋長国に設立。

地域社会の発展と成長に貢献する商業施設RICOH Future Houseを開設。

3D プリンター「RICOH AM S5500P」を発売。

世界的な社会的責任投資 (SRI) 指標「Dow Jones Sustainability World Indices」構成銘柄に採用される (2013年から3年連続)。

2016年 米国の衣類向けプリンター製造販売会社アナジェット社を買収。

「nano tech大賞2016」で最高位の「nano tech大賞」を受賞。
EcoVadis社調査で「ゴールド」の評価を継続取得。



RobecoSAM社のサステナビリティ格付けで2年連続「シルバー」クラスに選定。

リファクス600Sが「でんきの礎 (いしずえ)」に決定。

「世界で最も倫理的な企業」にEthisphere Institute社から7度目の選定。

社会課題の解決に取り組む分野の一つとして位置づけ、ヘルスケア分野に参入。

環境を基軸として事業の拡大・創出を目指し、「リコー環境技術開発センター」を開所。

リコー環境事業開発センターのリユース・リサイクル活動が内閣総理大臣賞を受賞。

2017年 新環境目標を設定。

CDPから最高評価の「気候変動Aリスト」企業に認定。
平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞。

2018年 環境省「環境 人づくり企業大賞2017」で環境大臣賞受賞。

ESG委員会設立。

2019年 リスクマネジメント委員会設立。

新世代MFP「RICOH IM Cシリーズ」発売。

* コンシューマー製品において、水平方向や半球だけでなく、撮影者を取り巻く空間全てをワンショットでキャプチャーできる点において。(2013年10月時点。リコーイメージング社調べ)

RICOH

株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込1-3-6

TEL. 03-3777-8111（代表）

<http://jp.ricoh.com>